

2025年度
事業報告書

2026 年 6 月 9 日
一般社団法人 日本銅センター

目次

1. 活動履歴	P. 04
2. リサイクル・環境課題事業	
(1) 銅の循環性実態の把握	P. 06
(2) リサイクル原料としての不適切な材料	P. 06
(3) 鉄鋼の不純物としての銅回収	P. 06
3. STEM 教育事業	
(1) 第3回夏休み自由研究コンテスト実施	P. 07
(2) 「銅の日」のイベント開催	P. 09
(3) 経済産業省こどもデーに参加	P. 10
(4) その他イベント参加	P. 11
(5) 「銅ってすごい！」のショートアニメーション作成	P. 13
4. ICA/JCDA 共同プロジェクト	
(1) HVAC&R JAPAN 2026 への出展	P. 13
(2) ヒートポンプの普及促進活動への支援	P. 14
(3) 高性能銅管のプロモーション	P. 15
(4) 再生可能エネルギー、連携線関連の情報収集と銅需要の維持・拡大への貢献	P. 15
(5) 電線地中化の情報収集	P. 16
5. その他のプロジェクト	
(1) 超抗菌プロジェクト	P. 17
(2) 日本鋳業振興会助成事業	P. 18
(3) 日本銅学会との連携	P. 18
6. 銅管・板条技術関係特別事業	
(1) 銅管開発活動	P. 19
(2) 継手開発活動	P. 19
(3) 冷媒用被覆銅管活動	P. 20
(4) アルミ代替え防衛活動	P. 20
(5) 銅板屋根構法普及活動	P. 20

7. PR 関係事業	
（1）機関誌「銅」の発行	P. 21
（2）パンフレット、リーフレット増刷	P. 21
（3）展示会への出展	P. 22
（4）HP 及び特設サイト、SNS の運用	P. 23
（5）はんだ付・ろう付講習会への協力	P. 23
（6）管工機材の教科書執筆	P. 23
8. 日本銅センター賞表彰事業	P. 24
9. 共通事業	
（1）学会、外部セミナー展示会等への参加	P. 24
（2）規格認証、維持更新、およびサポート	P. 25
（3）情報発信と適切な資料の開示	P. 25
<参考資料 1> 作成資料一覧	P. 26

1. 活動履歴

2025 年 5 月 7 日 日本銅センターにおいて監事会を実施し、会計監査において 2024 年度の決算会計が監査され適正且つ正確であることが確認され承認された。

2025 年 5 月 9 日 日本銅センターにおいて高元業務委員長の司会により業務委員会が開催され、2024 年度事業報告書（案）、2024 年度決算報告書（案）、第 52 回日本銅センター賞受賞者が審議され、原案通り決議された。

2025 年 5 月 20 日 第 1 回理事会（書面審議）により 2024 年度事業報告書（案）及び決算報告書（案）が原案通り決議された。

2025 年 6 月 4 日 コートヤード・マリオット銀座東武ホテルにおいて小野日本銅センター会長の司会により定時総会が開催され、2024 年度事業報告書（案）及び 2024 年度決算報告書（案）、および 2025 年度役員（案）が審議され、原案通り決議された。

2025 年 6 月 4 日 コートヤード・マリオット銀座東武ホテルにおいて小野日本銅センター会長の司会により第 2 回理事会が開催され、2025 年度会長、副会長、専務理事（案）、2025 年度臨時総会議案（案）が審議され、原案通り決議された。

会長	林 陽一	JX 金属株式会社	代表取締役社長
副会長	小林敬一	古河電気工業株式会社	取締役会長
副会長	森平英也	古河電気工業株式会社	代表取締役社長
専務理事	桑山広司	一般社団法人日本伸銅協会	専務理事

2025 年 7 月 18 日 第 1 回臨時総会（書面審議）が開催され次の議案について原案通り決議された。

理事の一部変更の承認

7/18 付で河合理事が辞任し、斉藤理事が就任

2026 年 3 月 6 日 日本銅センターにおいて高元業務委員長の司会により業務委員会が開催され、2026 年度事業計画書（案）及び事業予算書（案）が審議され、原案通り決議された。

2026 年 3 月 24 日 日本銅センターにおいて林会長の司会により臨時総会が開催され 2026 年度事業計画書（案）及び事業予算書（案）について審議され原案通り承認された。

2026 年 3 月 24 日 日本銅センターにおいて林会長の司会により 3 月度理事会が開催され
2026 年度事業計画書（案）、事業予算書（案）及び 2026 年度定時総会議案について審議され
原案通り承認された。

登記届出

役員変更登記東京法務局手続完了(2025 年 8 月)

理事変更登記東京法務局手続完了(2025 年 8 月)

2. リサイクル・環境課題事業

(1) 銅の循環性実態の把握

日本国内における「銅」のフローについて公表した図を基に、ICA と協議し詳細情報を共有した。

持続可能な社会実現へ向けた銅の貢献とリサイクルの実態に関して 2025 年 11 月 1 日に銅学会の特別講演にて発表を行った。

(2) リサイクル原料としての不適切な材料（日本伸銅協会委託）

近年、高機能新素材として複合材の開発が行われているが、伸銅メーカーがリサイクル原料として直接炉に投入できないケースが増加している。その製品事例を調査した。

- ① Hybrid 複合ケーブル
- ② 耐腐食材をライニング加工された銅管
- ③ 鉄に銅めっきされた管、線、金具
- ④ クラッド材
- ⑤ 自動車ハーネスでの銅線とアルミ線の混在や複合材
- ⑥ 切削加工の材料段取り換え時の切削屑
- ⑦ 摩耗状態検知線（ガラスファイバー）入り合金トローリー線
- ⑧ 銅・アルミ混合ワイヤーハーネス由来のナゲット
- ⑨ 防水コネクタのカット部分
- ⑩ Hybrid 車の 1 次と 2 次モーターが一体のユニット由来のエナメル線

これらの複合材に関しては、製品に組み込まれて寿命を全うする前に、加工及び端材としてリサイクル市場に出回ることも想定されるため、伸銅メーカーやリサイクル全連など関係者に早急な周知が求められる。

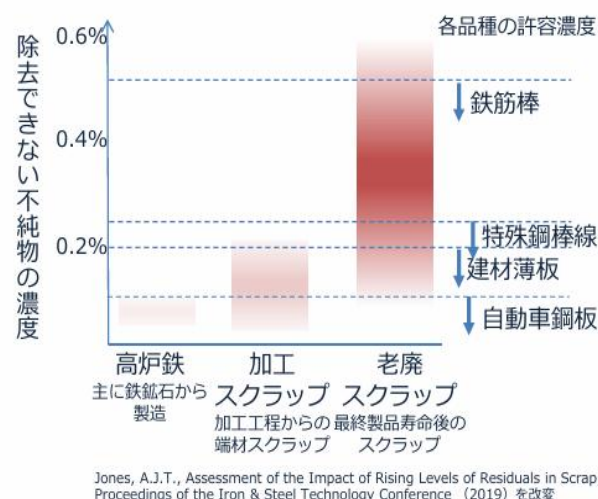
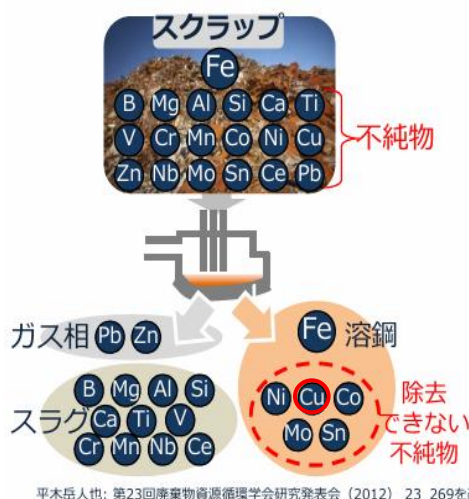
また、最近、ベトナムなどの新興国より輸入される「1 号銅線」に亜鉛や鉛などの不純物が含有しており、それが伸銅リサイクル材として持ち込まれたケースも発生していることがわかった。

(3) 鉄鋼の不純物としての銅回収

今後、鉄鋼メーカーがカーボンフットプリント対策で高炉から大型電炉で高級品を生産する場合、鉄スクラップの高品位化が必要であることが分かった。そのため、現在許容されている不純物濃度を極限まで低減するために、スクラップ原料の高精度な不純物除去が必要になり、その結果、銅を含んだ鉄スクラップ不純物が発生する。今後は、この不純物を追跡調査し、そこからどのように銅分を回収できるかを検討する必要がある。

参考までに、下記にそれぞれの製品群の不純物許容濃度を示す。

- | | | |
|-----------------------|-------|--------|
| ○自動車鋼板：高炉生産品（主に鉄鉱石） | 不純物濃度 | 0.1%以下 |
| ○建材薄板：加工スクラップ（加工工程端材） | 不純物濃度 | 0.2%以下 |
| ○鉄筋棒：老廃スクラップ（製品寿命後） | 不純物濃度 | 0.5%以下 |



（出典：日本製鉄(株) 資料）

3. STEM 教育事業

（1）第3回夏休み自由研究コンテスト実施

日本銅センター主催で、若い世代の科学・銅への関心を高め、理科教育支援を実施することを目的に、小学4～6年生・中学生を対象に「第3回 銅のすごい力を調べてみよう！ ～夏休み自由研究コンテスト～」を実施した。

募集内容は、銅の特性に関するもの全般としており、幅広い研究テーマの作品が前回以上に多数寄せられた。また、研究内容が高度化していると感じられた。表彰の分類は中学生個人・団体、小学生個人・団体、審査員特別賞。

○募集期間 7月12日～9月30日

○審査員(団体) ・群馬大学大学院理工学府教授 板橋英之氏
・日本鋳業協会
・日本伸銅協会/古河電気工業

○受賞者 11月17日、日本銅センターHPにて受賞者を発表した。

【最優秀賞】

中学生の部：柴田 千歳（静岡県）

「ひずむと熱が発生する？ ～銅で探る金属の不思議～」

小学生の部：園畠 里佳（大阪府）

「銅が水の腐敗と小松菜の成長に与える影響」

【優秀賞】

中学生の部：堀内 俊治（千葉県）

「銅の殺藻効果の研究2 ―予防策としての観点から―」

中学生の部：高井 真帆（愛知県）

「古代の鏡、青銅鏡を作ろう ―家庭で作る青銅器―」

中学生の部：上野 葉太（東京都）

「電導界の殿堂入り！？ ～銅の導電性に関する実験～」

小学生の部：神谷 すみれ（愛知県）

「災害時に役立てる！？ 熱伝導対決実験！」

小学生の部：村上 博亮（京都府）

「貝は銅に触れるとどのような反応をするだろうか？」

小学生の部：浅野 ふみ香（愛知県）

「銅をきれいにする研究」

小学生の部：園畠 泉美（大阪府）

「べっこうあめ作り 銅なべvsステンレス鍋」

【審査員特別賞】

群馬大学理工学府選出：細見 仁一朗（京都府）

「銅はサビても強かった！？ ～緑青の防腐作用と抗菌力を調べてみた～」

日本鋳業協会選出：井之上 理紗（兵庫県）

「銅がないとエアコンが使えない？」

日本伸銅協会/古河電気工業選出：北野 瑞葵（和歌山県）

「銅なる？みかん」

【団体賞】

中学生の部：大久保 奈月（東京都）・大久保 由良（東京都）

「昆虫体内の銅の抗菌・防カビパワーを検証する」

小学生の部：該当者なし

○表彰式開催(11月29日：TKP秋葉原カンファレンスセンター)

受賞者の表彰式を開催し、多くの受賞者とその御家族が出席した。

表彰式終了後、受賞者による研究発表をおこない、それぞれの研究に対して日本銅センターからコメントを送った。

最後に、審査員の群馬大学教授 板橋英之氏による特別講演を行った。

後日、受賞者及び保護者からいただいたメッセージの一例をご紹介します。

- ・表彰式の研究発表は、学校では体験できない学びの場で、貴重な体験をさせて頂きました。
- ・みなさんの発表も、板橋先生、ご関係者のみなさまのお話も、全て楽しく拝聴しました。大変貴重な経験をさせていただいた。

- ・研究発表を聞いていただく機会や聞く機会はなかなかないので、とても良い経験になりました。
- ・東京で皆さんにお会いしてお話を聞けず残念でしたが、同年代の学生の研究から刺激をもらえました。これからも研究していきたいと意欲がわきました。



(2) 第二回「銅の日」のイベント開催(8月2日：科学技術館)

日本銅センター、日本鋳業協会、エネルギー・金属鋳物資源機構が主催する子供向けのイベント「銅の日」の第二回目を開催した。

主に、小中学生を対象として、銅についての知識を深めるため、銅の特徴や銅産業の川上から川下まで幅広く紹介する展示説明や実験等を行い、子供達に銅の魅力を伝える場とした。

展示会場では主催者及び日本伸銅協会による実験・観察・調べ学習等のイベントを実施した。さらに今回から別室にて、エネルギー・金属鋳物資源機構、望月板金、東京大学によるワークショップも開催した。

イベント参加者へアンケートを実施、“楽しかった”と評価を多数いただいたが、“勉強になった”との評価も多く、目的である STEM 教育を実現したイベントとなった。

○主催 日本銅センター、日本鋳業協会、エネルギー・金属鋳物資源機構

○後援 経済産業省、日本伸銅協会、

J X金属、住友金属鋳山、DOWAホールディングス、

日鉄鋳業、古河機械金属、三井金属鋳業、三菱マテリアル、

望月板金、東京大学 C A S T

○プログラム

<展示会場> 各コーナーで調べたこと、学んだことを記録用紙に記入する。

- エネルギー・金属鉱物資源機構
 - ・銅鉱石をさがそう
- 日本鉱業協会
 - ・資源探査の世界
 - ・カーボンニュートラル、デジタルトランスフォーメーションに使われる銅！？
- 日本伸銅協会
 - ・銅箔で折り紙
- 日本銅センター
 - ・銅はどうやってつくられるの？銅の製造方法とリサイクル
 - ・銅について調べてみよう

<ワークショップ>

- エネルギー・金属鉱物資源機構
 - ・資源探査についての講話
- 東京大学CAST
 - ・銅に関する実験教室「銅が生み出す電磁誘導」
- 望月板金、日本銅センター
 - ・銅を使った工作教室「たがねでトントン」「菊絞り」



(3) 経済産業省こどもデーに参加 (8月6日～7日：経済産業省別館)

例年開催される経済産業省こどもデーに日本伸銅協会、日本鉱業協会と共に参加した。日本銅センターは銅に関する下記のプログラムを実施した。

- ・「銅はどうやって作られるの？」銅の原料・加工・リサイクルを学ぶ。
- ・「素材の違いを調べよう」銅・黄銅と他の金属の違いを調べる。
- ・「銅のスプーンで氷を切ってみよう」銅の熱伝導性を体験。



(4) その他イベント参加

①「アースデイ in 桐生 2025」に参加（4月20日：群馬大学）

「アースデイ in 桐生」はアースデイ in 桐生 実行委員会が毎年実施している「子どもたちの未来により良い環境を残して行くため」をスローガンに、身近な環境から地球規模に至るまでの総合的な環境イベント。日本鉱業協会と共に参加した。

子供達に、限りある銅資源を有効に使うため使用済の銅製品の回収から再び銅製品としてリサイクルされるまでの流れを紹介するプログラムを実施した。



②「学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025」に参加（7月20日：東北大学）

「サイエンス・デイ」特定非営利活動法人 natural science が毎年実施している科学技術の"プロセス"を子どもから大人まで五感で感じられる場づくりを目指した体験型・対話型のイベント。東北大学 多元物質科学研究所 非鉄金属製錬環境科学共同研究部門ブース内にて、住友金属鉱山・日本鉱業協会と共に参加した。

日本銅センターのプログラムは「銅の製造方法とリサイクルの紹介」「銅に関する実験と観察」で、東北大学の学生さんにも御協力いただき、多くの参加者に銅の魅力を伝えた。

なお、当ブースのプログラムはサイエンス・デイ AWARD2025「いろいろな科学技術があって勉強になったで賞」を受賞した。



③「片平まつり 2025」に参加（10月11日：東北大学）

「片平まつり」は2年に1回開催される東北大学の研究所やセンター、史料館を紹介するイベント。東北大学 多元物質科学研究所 非鉄金属製錬環境科学共同研究部門ブース内にて、住友金属鉱山・日本鉱業協会と共に参加した。

日本銅センターのプログラムは「銅の製造方法とリサイクルの紹介」「銅に関する実験と観察」で、東北大学の学生さんにも御協力いただき、多くの参加者に銅の魅力を伝えた。



④「相模原みのり塾」出前講座

さがみっこ学び応援隊の活動に取り組んでいる「相模原みのり塾」（無料学習塾）にて、中学1年～3年生を対象に北里環境科学センターと共同で出前講座「銅博士になろう！」を実施した。座学と実験を交えた講座で計3回の授業を行った。

第1回(6月29日) 日本銅センター

素材(金属)の違いを調べよう

第2回(8月31日) 北里環境科学センター

生命を守る金属 ―銅の役割：鉄の体内リサイクル―

日本銅センター

銅ってどう（銅）なってんの？

第3回(9月21日) 北里環境科学センター

生命を守る金属 ―赤血球の形態観察・金属の触媒作業―
日本銅センター

「銅」を使って電池のしくみを学ぼう



⑤「職場体験学習」銅の実験教室（7月30日：某社）

某社で行われた地元中学生の職場体験学習に参加し、銅の実験教室を行った。

銅の特徴と用途について説明し、数種類の銅合金を含む金属の違いの観察と、銅の優れた熱伝導性を体感するプログラムを実施した。



(5)「銅ってすごい！」のショートアニメーション制作

広報冊子「銅ってすごい！」の世界観を、銅の5つの特徴をモーショングラフィックで表現したショートアニメ(1分32秒)を製作。イベント会場等でブースのPRに使用する。



※＜参考資料1＞作成資料一覧参照

4. ICA/JCDA 共同プロジェクト

(1) HVAC&R JAPAN 2026 に出展（1月27日～30日：東京ビックサイト）

2年に1回開催される HVAC&R Japan 2026 に出展した。

○出展内容

・パネル展示

「やっぱり、選ばれるのは「銅管」です」

空調用冷媒銅配管及び継手の優位性を紹介。

「空調用冷媒「銅」配管に関する規格を制定しております」

日本銅センター規格の紹介。

「銅のリサイクルの現状」

銅資源の循環と、当センターが独自調査を行った「銅のフロー図」を展示。

「エコキュートのすぐれたエネルギー効率のカギを握る「銅」」

家庭部門の低炭素・脱炭素化のカギを握る「エコキュート」の紹介とユニット内で活躍する「銅」の紹介。

・製品等の展示

空調用銅管(極細径内面溝付銅管、フィンチューブ、冷媒用被覆銅管)、エコキュートの実機、日本銅センター規格書、銅原料として銅鉱石・リサイクル原料等。

○出展参加企業

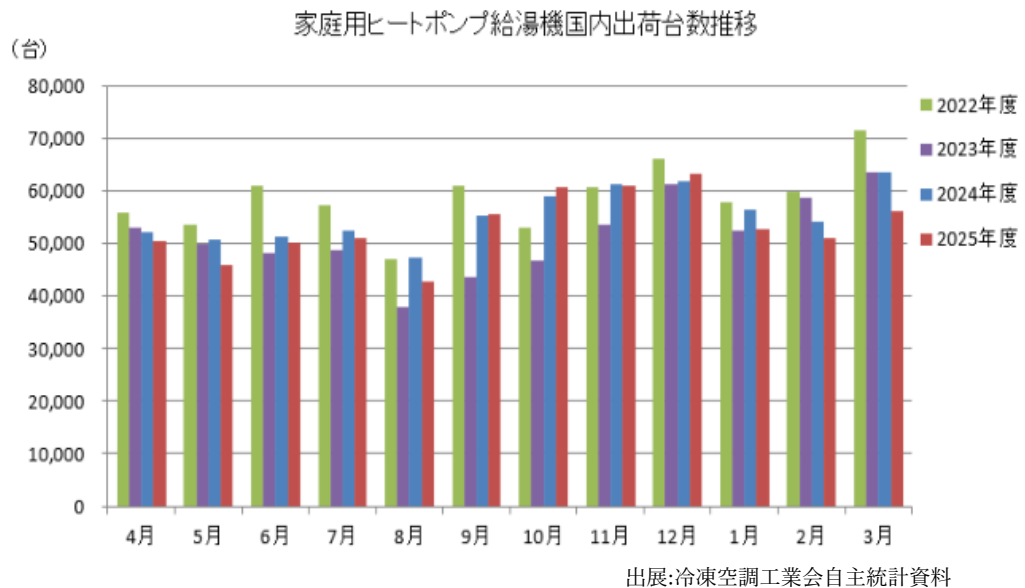
N J T銅管、KMCT、コロナ、ヒートポンプ・蓄熱センター



(2) ヒートポンプの普及促進活動への支援

ヒートポンプ・蓄熱センター（HPTCJ）が実施する、家庭、業務、産業各分野向けへの普及促進活動への支援とそのための諸施策の調査を行った。

2025年度も2024年度に続き補助金の上限に達したことを踏まえ、2026年度は一台当たりの補助額を引き下げ、支援台数を増加させることで、導入の加速を目指し、継続した給湯省エネ事業が実施されることとなった。対象は、高効率給湯器導入促進による家庭部門の省エネルギー推進事業補助金と、補助対象となる給湯器の設置に合わせて、既存住宅のリフォーム工事で電気蓄熱暖房機または電気温水器の撤去工事を行う場合の補助となる。



(3) 高性能銅管のプロモーション

佐賀大学及び東京海洋大学での研究（2025 年度：「混合冷媒の細径管内凝縮および蒸発伝達の相関式開発」）を継続するとともに、メリーランド大学の Vikrant Aute 教授来訪時には、アメリカでの研究開発の状況をエアコンメーカー4 社に紹介した。

次世代冷媒を使用した細径溝付銅管の特性や銅製フィンを用いた熱交換特性等 11 件の報告を学会や投稿論文を通して行い、銅の優位性をアピールすることができた。

(4) 再生可能エネルギー、連携線関連の情報収集と銅需要の維持・拡大への貢献

①日本風力発電協会（JWPA）の会員となり、政策部会の web 会議に毎月参加して政策動向等の情報収集を行った。2025 年 10 月 15～17 日に開催された GLOBAL OFFSHORE WIND SUMMIT JAPAN 2025（於：秋田市）に参加し洋上風力発電の現状及び将来見通しに関する情報を収集した。

②長崎県五島市沖の浮体式洋上風力発電所が 2026 年 1 月 5 日、商業運転を開始した。

2100kW の風車 8 基、総出力 1 万 6800kW で、再エネ海域利用法に基づき、国から公募占用計画の認定を受けた国内第 1 号の案件。使用された海底送電ケーブルは 22 kV スタティックケーブル 7.3 km、ダイナミックケーブル 7.5 km であった。



出展：戸田建設五島市沖洋上風力発電事業資料

③北九州響灘（ひびきなど）洋上ウインドファームが2026年3月2日に営業運転を開始。最大出力22万kW（9800kW×25基）で国内最大規模の洋上風力発電所となった。一般家庭約17万世帯分を供給可能。海底ケーブル引き回しについては、最短距離ではなく地形や漁礁、船舶の航行ルートを考慮しており、最短見積もり量の1.5倍にあたる総巨長^{こうちよう}約60km、銅使用量約450Tonにおよんだ。

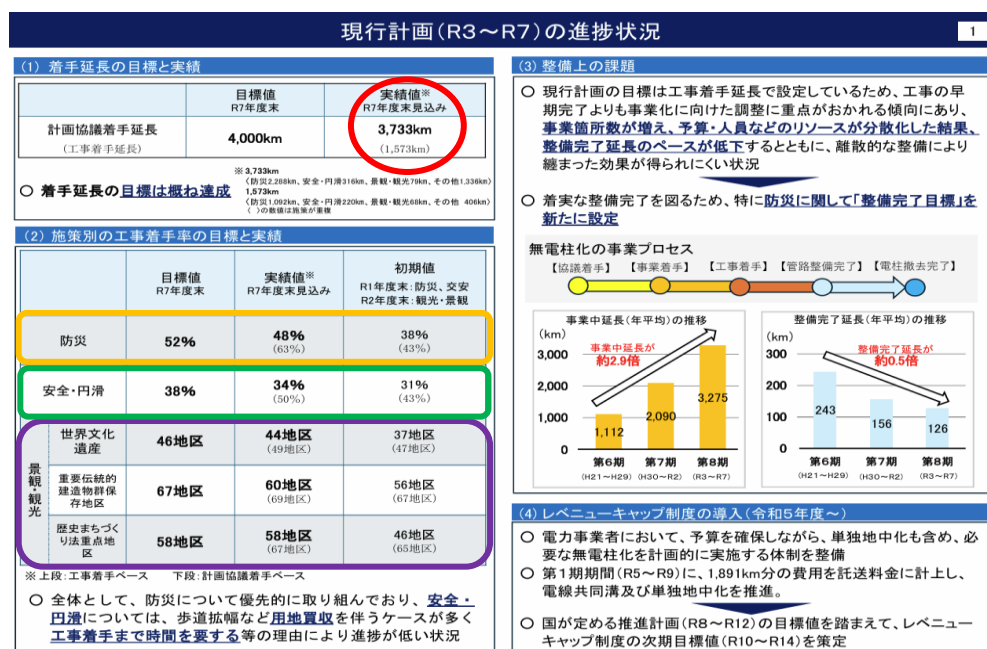
④2028年～2030年に稼働予定であった千葉県銚子沖390.6MW、秋田県能代・三種、男鹿沖478.8MW、秋田由利本荘沖819MWに関しては再公募が予定されている。

（5）電線地中化の情報収集

①「NPO法人電線のない街づくり線ネットワーク」の会員となり、無電柱化の推進状況を把握した。同法人では2025年7月23～25日にかけ第13回無電柱化推進展において無電柱化ミニセミナーを実施し、専門的な知識含めその重要性について広く紹介した。

②第8期推進計画において、計画協議着手延長令和7年度末目標値に対し実績値は概ね達成との状況であった。具体的には令和2年から7年度までの5年間で、約631kmの管路整備が完了し、約3700kmの計画協議に着手済みとのこと。

③国土交通省「無電柱化推進のあり方検討委員会」では、令和7年12月までに5回の検討会を開催し、「次期無電柱化推進計画の推進に向けて」の議論を重ねた。



出展: 無電柱化推進のあり方検討委員会 (2025年12月24日)

資料1: 次期無電柱化推進計画(骨子案)について

第8期推進計画期間内の管路整備延長

○ 現行計画では、「防災」「安全・円滑な交通確保」「景観形成・観光振興」を目的に、それぞれ重点対象を定め整備を推進しており、令和7年度末（見込）までの5年間で631kmの管路整備が完了。



※1 「2. 安全・円滑な交通確保」及び「3. 景観形成・観光振興」目的と一体的に行った事業の59kmを含む。
 ※2 「1. 防災」及び「3. 景観形成・観光振興」目的と一体的に行った事業の50kmを含む。
 ※3 「1. 防災」及び「2. 安全・円滑な交通確保」目的と一体的に行った事業の16kmを含む。

出展：無電柱化推進のあり方検討委員会（2025年12月24日）

資料1：次期無電柱化推進計画（骨子案）について

5. その他のプロジェクト

（1）超抗菌プロジェクト

①CU STAR 認証制度維持

CU STAR(銅)認証件数は2025年度末で34件。

②展示会での超抗菌性能をPR

「超抗菌銅」PR活動として、高機能金属展 大阪展及び高機能金属展 東京展にて、抗菌性能試験結果、及びCU STAR 認証製品の展示を行った。※7. (3) 参照

③北里環境科学センターが長期に渡り黄銅製ドアノブやドアハンドルの細菌培養検査を行っている「千代田病院」の調査に同行、黄銅表面の抗菌効果について確認。



④大阪公立大学 川上洋司先生の研究「塑性加工が銅および銅合金の抗菌性に及ぼす影響」に対し、試験材料となるタフピッチ銅の冷間圧延加工に関する協力を実施。

（２）日本鋳業振興会助成事業

本年度は、下記４件の試験研究の助成を受けた。

①「金属衛生機能部材の社会実装推進を志向した感染リスク新評価体系の構築」（継続）

研究実施者：秋田大学 宮野泰征

目的：金属材料を活用した公衆衛生戦略の確立、衛生機能部材の社会実装推進を目的に、感染リスク（細菌・ウイルス）に対する効果の迅速評価/視覚化を可能とする新評価体系を構築する。

②「水系関連感染細菌の汚染環境改善に向けた抗菌銅材の活用」（継続）

研究実施者：北里環境科学センター 笹原武志

目的：水系関連感染を引き起こすレジオネラ菌や非結核性抗酸菌そして緑膿菌等について汚染状況を把握すると共に、各分離菌株について銅及び銅合金の殺菌効果を評価し、それぞれに最適な銅材を用いて医療・療養環境にとどまらず市井環境の衛生的改善に寄与することを目的とする。

③「塑性加工が銅および銅合金の抗菌性に及ぼす影響」（新規）

研究実施者：大阪公立大学 川上洋司
同志社大学 廣田健

目的：金属の物理的、化学的特性は塑性変形の影響を受けて変化するため、金属材料の抗菌性は塑性加工等の影響を受けることが危惧される。そこで塑性加工や強加工が銅及び銅合金（以下、銅と称す）の抗菌性に及ぼす影響とその機構を明らかにする。

④「湿式処理による銅製錬スラグからの成分抽出と機能材料への転換」（新規）

研究実施者：群馬工業高等専門学校 羽切正英

目的：日本国内において年間 250 万トン産出される銅製錬スラグは様々な用途がある一方、その一部は製錬所等に堆積保管され、利活用を待っている状況にある。本研究では、非鉄金属製錬スラグのうち特に銅製錬スラグに着目し、湿式処理によりスラグ中の各成分を選択的に抽出・回収するプロセス、回収した成分を活用する手法を開拓することを目的とする。

（３）日本銅学会との連携

①日本銅学会第 65 回講演大会(10 月 31 日～11 月 2 日：アクリエひめじ)

日本伸銅協会と共催で開催した。

また、特別講演において、「持続可能な社会実現に向けた銅材料の貢献と銅リサイクルの実際」と題して中山宏明前事務局長が講演を行った。※2.（１）参照

6. 銅管・板条技術関係特別事業

(1) 銅管開発活動

- ①銅管メーカー2社で構成される銅管開発委員会を隔月で開催し、日本銅学会の研究部会（熱交換器銅管品質管理手法に関する研究部会）、日本冷凍空調学会及び腐食防食学会の講演大会・セミナー、展示会（HVAC&R JAPAN 2026）トピックス、ISO 14903：2025 改正内容等について情報を共有した。
- ②研究部会ではラウンドロビントストの手法討議に積極的に参加した。また、11月の日本銅学会講演大会では研究部会のテーマセッションと共に腐食・防食に関する発表から、最新動向を把握した。
- ③委員会各社の事業所を上期・下期各1回訪問し、銅管関連の規格（JIS, JWWA 及び JCDA）のトピックスについて情報を交換した。

(2) 継手開発活動

- ①従来、銅管継手製品メーカー8社で構成されていた継手開発委員会へ新たに2社が加入し、10社体制として委員会を隔月で銅管開発委員会と合同開催した。国土交通省の公共建築工事標準仕様書令和7年版の見直しについては、前段階として営繕部計画課より公共建築工事標準積算基準へのメカニカル継手（機械的管継手）追加に関して係数値取り纏めの要請があり、委員会関係各社（8社）によるWG検討結果に基づく業界案を3月に取り纏めた。

新たに加わった2社の製品を以下に示す。

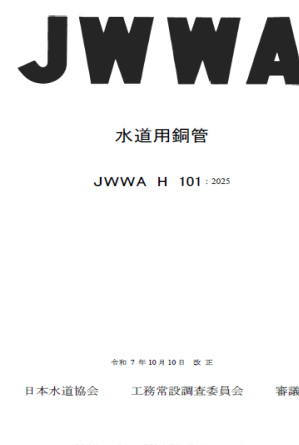


株式会社ベンカン



桃陽電線株式会社

- ②昨年度に日本水道協会より見直しを依頼された JWWA H 101（水道用銅管）：2004の改正案については、7月に開催された同協会の規格専門委員会において内容が審議・承認され、10月に2025年版として発行された。また、同規格の検査施行要項についても見直しを実施し、12月に施行要項改正版が同協会 HP にて公開された。



- ③環境省地球温暖化対策課よりフロン類漏洩防止について冷媒用被覆銅管の接合に使用する機械的管継手の問い合わせがあり、8月に所管部署のフロン対策課を訪問して委員会各社の製品仕様及び関連業界規格（日冷工）も含めて説明を行った。

（３）冷媒用被覆銅管活動

- ①冷媒用被覆銅管の製造及び販売関係 12 社で構成される冷媒用被覆銅管委員会を隔月で開催し、日本冷凍空調学会の講演大会・セミナー、HVAC&R JAPAN 2026 トピックス等について情報を共有すると共に、原管の銅管肉厚を規定した JCDA 規格に基づく品質遵守を申し合わせた。
- ②公共建築工事標準仕様書に関連する公共建築協会による監理指針について、高温多湿による結露のおそれがある箇所の断熱材被覆銅管の保温施工例を協議し、日本銅センターHPに掲載した。

（４）アルミ代替え防衛活動

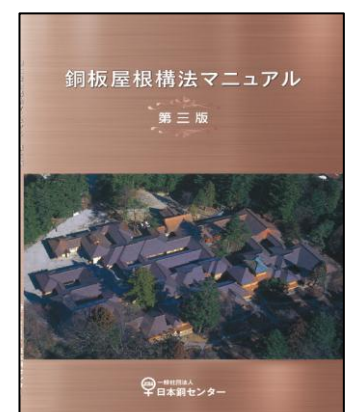
- ①アルミ配管設備工業会（APEA）の動向について、銅管及び継手開発委員会メンバー各社、展示会（HVAC&R JAPAN 2026）及び業界紙より情報を収集した。
- ②高機能金属展・HVAC&R JAPAN 2026 出展時に銅管及び銅電線、リサイクルの現状等のパネル展示を行い、銅の優位性のPRを行った。※4.（１）及び7.（３）参照



（５）銅板屋根構法普及活動

銅板屋根技術伝承の為、「銅板屋根構法マニュアル」の活用推進、及び銅板屋根に関する相談窓口を継続。

本マニュアルは設計者、建築板金組合、職業訓練校、銅板屋根施工業者、ゼネコン、設計事務所等に配布。



7. PR 関係事業

(1) 機関誌「銅」の発行

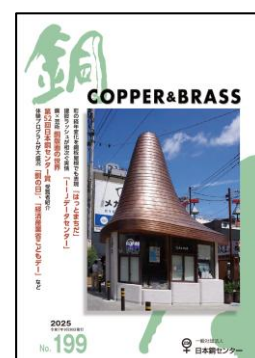
199号(16頁 発行部数は3,500部)、200号(20頁 発行部数は4,000部)を発刊し、正会員およびその会員会社、賛助会員をはじめ、全国の各種ユーザー及び教育機関(大学・図書館)、消費生活センター、官庁(水道事業体等)、需要者団体、マスコミ媒体等に配布した。

200号を記念して銅誌の歴史と記念企画を掲載。またこれを機会に、日本銅センターに所蔵がない号について、全国の図書館の御協力を得てすべての発行号の内容を揃えた。この貴重な財産を保存・活用できるよう、整備をすすめる。

① 199号(2025年9月30日発行)

・掲載内容

はっとまちだ(銅板屋根)、データセンターの実情と未来、銅版画の世界、日本銅センター賞受賞3件の紹介、銅センターニュース



② 200号(2026年3月31日発行)

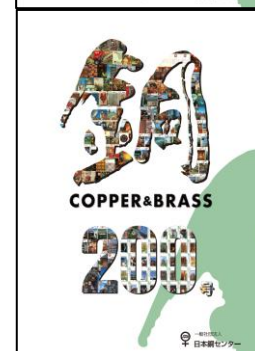
・掲載内容

N-net(南海トラフ海底地震津波観測網)、銅誌の歴史、あの「銅」は今、大阪・関西万博E Vバス自動給電、五十嵐美樹先生と行く佐賀製錬所、大阪大学青色半導体レーザ研究室、銅版画の世界、夏休み自由研究コンテスト表彰式、銅センターニュース

・「五十嵐美樹先生と行く佐賀製錬所」の取材の様子、及び200号について、五十嵐美樹先生のポッドキャスト番組「五十嵐美樹のドタバタ科学ラジオ」で紹介された。

#109(12月1日)、#110(12月8日)、#128(4月13日)

※＜参考資料1＞作成資料一覧参照



(2) パンフレット、リーフレット増刷

- ・銅ってすごい! 6000部 子供向けイベント、科学技術館 Metal Factory 他で配布
- ・日本銅センター案内 500部 日本銅センターの事業内容紹介パンフレット。展示会やイベント等で配布。

※＜参考資料1＞作成資料一覧参照

(3) 展示会への出展

①年2回開催される高機能金属展に出展した。

・第12回 メタルジャパン 高機能金属展 大阪展

5月14日～16日：インテックス大阪

・第12回 メタルジャパン 高機能金属展 東京展

11月12日～14日：幕張メッセ

なお、大阪展は日本伸銅協会と共同出展、東京展はそれぞれ単独で出展を行った。

○出展内容

・パネル展示

「銅の超抗菌・抗ウイルス性能」

銅の抗菌・抗ウイルス性能試験結果と CU STAR 認証の紹介を行った。

「銅のリサイクルの現状」

銅資源の循環と、当センターが独自調査を行った「銅のフロー図」を展示。

「やっぱり、選ばれるのは「銅管」です」

空調用冷媒銅配管及び継手の優位性を紹介。

「やっぱり、選ばれるのは「銅電線」です」

銅電線の高性能・信頼性・汎用性について紹介。

・製品等の展示

CU STAR 認証製品、銅管・銅電線を含む幅広い分野の高機能銅製品、銅原料として銅鉱石・リサイクル原料等。

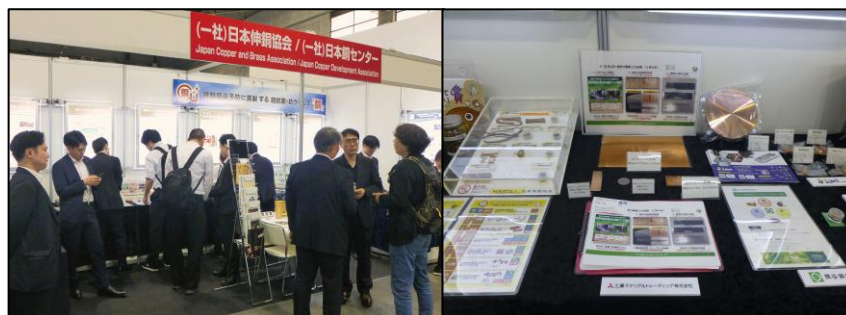
○出展参加企業

・CU STAR 認証製品・抗菌関係

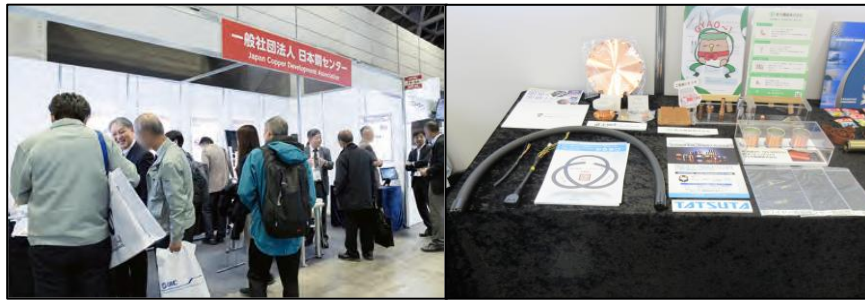
山崎金属産業、村木商事、新光金属、水野金属商事、佐野機工、星和電機、渡辺合金鑄造所、カウゼル、グッドアイ

・高機能銅製品、大学、一般製品、リサイクル等

アイジェクト、新光機器、三芳合金工業、三菱マテリアルトレーディング、KMCT、NJT 銅管、タツタ電線、岡谷鋼機、大阪大学接合科学研究所



メタルジャパン 高機能金属展 大阪展



メタルジャパン 高機能金属展 東京展

② 2年1回開催される HVAC&R JAPAN 2026 に出展した。※4. (1) 参照

(4) HP 及び特設サイト、SNS の運用

- 「銅の日」イベントの web ページを新設。
イベントの内容やタイムスケジュール等を掲載。
※＜参考資料1＞作成資料一覧参照
- 専門サイト「超抗菌・抗ウイルス」にて情報更新等の維持管理を行った。
- 今後の専門サイト拡充の準備検討を行った。
- HP、SNS(X、Facebook)等で銅に関する情報、及び日本銅センターの活動等情報発信を実施した。



(5) はんだ付け・ろう付け講習会への協力

NPO給排水設備研究会が実施する「配管技能講習会」が10月1日開催され、銅管のはんだ付け実習の支援を行った。
また、座学の「銅管の基礎知識」について、銅の特徴・銅の超抗菌性能について、情報のアップデートに協力した。



(6) 管工機材の教科書執筆

東京管工機材商業協同組合の依頼をうけ、「2026年版 管工機材の教科書(2026年3月発行)」の「第8章 銅管」の執筆を行った。



8. 日本銅センター賞事業

第 52 回日本銅センター賞の表彰式を 6 月 4 日、コートヤード・マリオット銀座東武ホテルにて開催した。

受賞者は次の通り。

受賞者	案件名
株式会社プロテリアル	長年に亘る高品質なワイヤ放電加工用電極線の製造・販売により銅の需要促進に貢献
有限会社久保水産	銅合金生簀を用いた養殖事業者のパイオニア的存在で、長年に渡り銅合金生簀を使用し養殖事業者への普及支援
中野 竜一 (奈良県立医科大学医学部)	「新型コロナウイルス」に対する銅及び銅合金の抗ウイルス効果とそのメカニズムの解明



表彰式記念写真

9. 共通事業

(1) 学会、外部セミナー展示会等への参加

- ①腐食防食学会、日本冷凍空調学会及び日本銅学会の他、各展示会（人とくるまのテクノロジー展、オートモーティブワールド、管工機材展、ネプコンジャパン、WIND・PV EXPO、データセンターEXPO、鉄道技術展及び HVAC&R JAPAN 2026 等）へ参加して各分野における銅素材の使用状況について情報を収集した。
- ②キガリ改正を受けた冷凍空調分野における新冷媒の動向について、日本冷凍空調学会及び HVAC&R JAPAN 2026 で情報を収集した。ルームエアコン及び業務用エアコンのビルマルについては、現行の HFC 系冷媒（R410A 及び R32）から GWP（温暖化係数）が自然冷媒同等である HFO 系冷媒への移行に向けて NEDO プロジェクトによる国産冷媒の開発が行われており、ダイキン工業の R474（R1132E+R1234yf）シリーズ（空調用は R474A、冷凍冷蔵用は R474B）が、他社より先行している事がわかった。また、これら HFO 系冷媒の使用圧力が現行 HFC 系冷媒同等との情報も得る事が出来た。

(2) 規格認証、維持更新、およびサポート

- ①冷媒用銅及び銅合金管に用いる機械的管継手の製品認証について、新規及び定期更新審査を当該製品に対して実施した。内訳は、以下の通りである。

〈製品認証審査〉対象規格：JCDA 0012：2022

6月：タブチ

GLソケット（新規認証）

12月：東尾メック

Rおっぞん（定期更新）

3月：タブチ

エアロジョイント（新規認証）

- ②認定工場（給水・給湯配管用及び冷媒配管用管継手）及び製品認証（冷媒用銅及び銅合金管に用いる機械的管継手）新規取得に関する各社からの問い合わせについて、認証制度の概要を説明し対応した。

(3) 情報発信と適切な資料の開示

- ①web サイトからの各種問い合わせについて、2025年度は113件(法人97件、個人16件)、その他銅に関する一般的な問い合わせについては、例年通り各担当者が責任を持って対応した。

- ②日本伸銅協会と合同でwebによる定例記者会見を毎月開催。

毎回、新聞社10社程度が出席。主に展示会やイベント等のトピックスを紹介した。

- ③賛助会員に対して、高機能金属展 大阪展、及び高機能金属展 東京展への出展募集、イベント情報、web サイト更新状況等の発信を行った。

< 参考資料 1 > 作成資料一覧

2025 年度製作の広報関連出版物、web ページ等

タイトル	内 容	発行年月
「銅の日」web ページ	「銅の日」イベントのプログラム等の紹介	2025 年 7 月
「銅」 199 号	日本銅センター機関誌 (A4 判オールカラー 16 頁)	2025 年 9 月
銅ってすごい！	子供向けパンフレット 改定・増刷 (A4 変形判オールカラー 16 頁)	2026 年 1 月
日本銅センター案内	日本銅センターの事業内容紹介 改定・増刷 (A4 判オールカラー 4 頁)	2026 年 3 月
銅ってすごい！ アニメーション	銅ってすごい！の世界観をショートアニメーションで表現	2026 年 3 月
「銅」 200 号	日本銅センター機関誌 (A4 判オールカラー 20 頁) 200 号記念号	2026 年 3 月